

私の夢 ～将来の展望～

岩手県立盛岡農業高等学校 動物科学科 3年 菊池 なつき

私の夢は家族で農業を経営し、農家レストランを開き6次産業化をすることです。夢を叶えるために家から遠く離れたこの盛岡農業高校に入学しました。

私の住んでいる岩手県遠野市宮守町は農業が盛んな地域です。農業総生産65億円。その内30億円を畜産業が占める地域です。近年では東日本大震災の被災地への後方支援が注目されています。また、古くから「民話のふるさと遠野」、あるいは、河童や馬でも知られています。そのような地域で私たち家族は農業を営んでいます。今から10年前までは酪農を営んでいました。父は共進会にも出品し、多くの農家さんと交流していたのを覚えています。しかし、経営の現実は厳しく、私たち兄弟を育てるために酪農は一度辞めることになってしまいました。その後は和牛の繁殖に切り替え、副業だった削蹄師の仕事を中心とする経営に変えていきました。母は家事や牛の世話をしながら働いています。生活的には大変ですが大変ながらも夫婦二人三脚で私たち兄弟を育ててくれました。そんな父や母の姿を見て私は自分も農業という職業に就きたいと思ったのと同時に、農業を営む人として尊敬していました。

それは、私が小学生の時に、東京から来た中学生が修学旅行の一貫で私の家に農業体験に来たことがきっかけでした。ブルーベリーの収穫や牛の世話などを体験し、「難しい、大変」などと言っていましたが、最後、帰るときに「大変だったけど楽しかったです。ありがとうございました」と言って笑顔で帰って行ったのでした。このことがすごく印象的でした。父や母のようにそんな一言をもらえるような生産者になりたいと強く思いました。その時から父や母を尊敬し、私が農業を志すきっかけになりました。そして兄2人も父が一度辞めた酪農をもう一度再開したいと思い今、頑張っています。

父や母、兄2人の姿を見て私にも出来るのではないかと思います。そこで私が考えたのが農家レストランを開くことです。兄達が生産した牛乳、父や母が作った野菜、米を料理にしてレストランで提供するという考えです。レストランを開くだけでなく日本が進めようとしている6次産業化を家族ですべて担うことができます。私は夢を実現させるために高校を卒業後は、北海道の酪農家に実習へ行き、酪農や経営を学びながら加工や調理技術を身につけたいと考えています。

皆さんは黒澤酉蔵さんを知っていますか。日本の酪農の父と言われ、黒澤さんの言葉に「健土健民、三愛精神」があります。私はこの言葉が好きです。健康な土から健康な食べ物が取れ、それを食すること、神を愛し、人を愛し、土を愛する。まさに、農業の基本となる考え方だと思います。私は黒澤酉蔵さんのことを知ってから実際に北海道の酪農を見て

みたいと強く思うようになりました。そして、昨年の夏インターシップの機会を利用し北海道千歳市にある箱根牧場で2週間実習を行いました。そこは酪農も営んでいてレストランがあり、工房があって加工品を作り年間1万個以上も売上げるミルクジャムも作られていました。もともとは、普通の酪農家だったそうです。大きな牧場でまさに私が理想とする牧場でした。朝は9時から始まって牛舎でパーラーの洗浄や工房での商品作りの手伝いなどを行い、夕方は7時まで搾乳をしました。毎日忙しく慣れないこともありましたが、たくさんのことを経験でき、とても勉強になりました。牧場を見学しながら案内していただいた時に社長の勝俣さんから、「酪農だけでは今の農業はやっていけないよ。これからは酪農を中心とする農業が必要だと思う。」という話を聞きました。箱根牧場ではそれを実現させていました。

酪農を営み家畜から出た尿や糞は堆肥を畑に散布し、良い野菜を作るだけでなく、デントコーンやアルファルファなどの自家飼料も栽培し、連作障害を防ぐために輪作をすることができていました。このことは、これからの農業に必要なということを知りました。そこから6次産業化へ発展していくのだと思いました。

私はこの実習を通して様々なことを学び、知ることができました。一緒に仕事してみて物を生み出すのはすごいことだなと感じました。たくさんの思いが込められた製品を「美味しいです。」と言ってもらえる喜びがどれだけ嬉しいのかわかりました。また、挑戦する大切さも学びました。加工を始めた時は赤字で大変で、商品もうまく開発できなかったそうです。でも諦めないでやってきたから今があるのだと思いました。

私も挑戦することを忘れず、家族で農業を営んでいきたいです。そして経営の規模拡大を目指したいです。具体的な経営内容は、長男がホルスタイン種を飼育し、牛乳を生産します。出荷と同時に、レストランでもお客さんに飲み放題として提供したいと考えています。そうすることによって、子供から大人まで牛乳のおいしさを知ってもらいます。そして二男がジャージー種を飼育します。乳量は少ないですが乳脂肪率が高く加工原料に適しています。それらでアイスクリームやチーズを作ります。牛乳や加工品を私が料理やスイーツにアレンジし、提供します。また、父と母が作った野菜や米なども提供します。それらには、すべてのものを自分たちで作った食材で作りたいという思いがあります。行く行くは、レストランでの提供だけでなく、牛乳や加工品も販売したいです。

その他にも共進会への出品、参加をし、酪農教育ファームも合わせて行いたいと考えています。教育ファームは子供から大人まで牛や酪農について知ることが出来る場です。

最終的には、生産から加工販売までを担い6次産業化を目指すのが経営の流れです。経営規模は部門ごとにホルスタイン40頭、ジャージー20頭で6千万円、乳製品加工2千万円、レストラン、産直施設で2千万円。年間総売上1億円、所得率40%を目指したいです。その他にも野菜や米も規模を大きくして栽培します。

私の夢は家族の夢でもあります。私ひとりでは夢は叶えることはできません。年間総売上1億円という目標は正直達成できるのか不安もあります。でも、家族と共に夢を実現させたいです。挑戦することを忘れずに夢を絶対に叶えます。そして、これからの農業、酪農を背負い担っていける人になりたいです。それが私の夢であり将来の展望です。
